

守山企業景況調査報告書

(第 15 回)

平成 25 年 4 月～平成 25 年 6 月期 実 績

平成 25 年 7 月～平成 25 年 9 月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 25 年 4 月～平成 25 年 6 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 72 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	20	100.0%
製造業	13	13	100.0%
建設業	12	12	100.0%
サービス業	21	21	100.0%
卸売業	6	5	83.3%
合計	72	71	98.6%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 25 年 4 月～平成 25 年 6 月、見通しを平成 25 年 7 月～平成 25 年 9 月とし、調査時点は平成 25 年 7 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 25 年 4 月～6 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 25 年 4 月～6 月期の調査結果では、売上高と資金繰りでは大きな変化が見られないものの、業況と採算（経常利益）で変化があった。業況は前回調査の▲20.9 から▲8.6 へ指数が上昇し、採算（経常利益）も▲34.8 から▲15.9 と指数が上昇した。

<業況>

業況 DI は▲8.6 と前回調査に比べて 12.3 ポイント上昇した。業種別では、小売業が 10 ポイント低下の▲45.0、製造業は 42.3 ポイント上昇の▲7.7、建設業が 16.7 ポイント上昇の 50.0、サービス業が 2.2 ポイント上昇の▲20.0、卸売業が 60 ポイント上昇の 40.0 であった。小売業が落ち込んだが他の業種は上昇であった。

4～6 月期の見通しは、全体で▲13.6 と 4～6 月期の実績から 5 ポイント下っている。

<売上高>

売上高 DI は▲7.0 と前回調査に比べて 0.2 ポイント上昇している。業種別では、小売業が 20 ポイント低下の▲50.0、製造業が 40.4 ポイント上昇の 15.4、建設業が前回調査と同じ 50.0、サービス業が 18.3 ポイント低下の▲33.3、卸売業が 40 ポイント上昇の 80.0 となった。製造業と卸売業が共に 40 ポイント上昇したのに対して、小売業、サービス業といった個人消費関連は指数が低下している。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲15.9 と前回調査に比べて 18.9 ポイント上昇している。業種別には、小売業が▲50.0 で 5 ポイント低下、製造業が 9.1 と 76.6 ポイント上昇、建設業が 33.3 で 33.3 ポイント上昇、サービス業が▲28.6 で 8.6 ポイント低下、卸売業が 0.0 で 60 ポイント上昇であった。

7～9 月期見通しでは、全体で▲24.3 と 4～6 月期の実績に比べて 8.4 ポイント低下となっている。

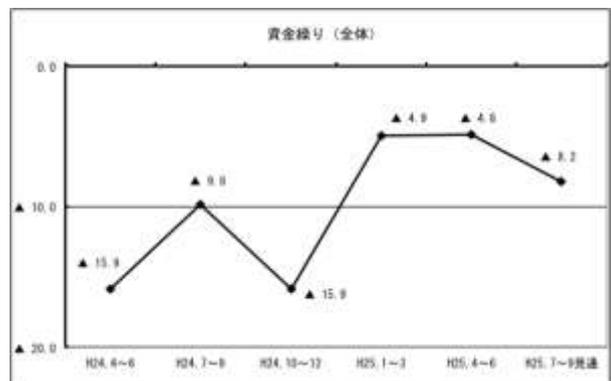
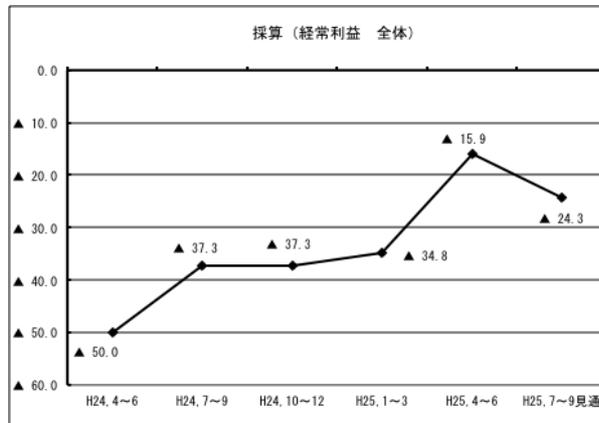
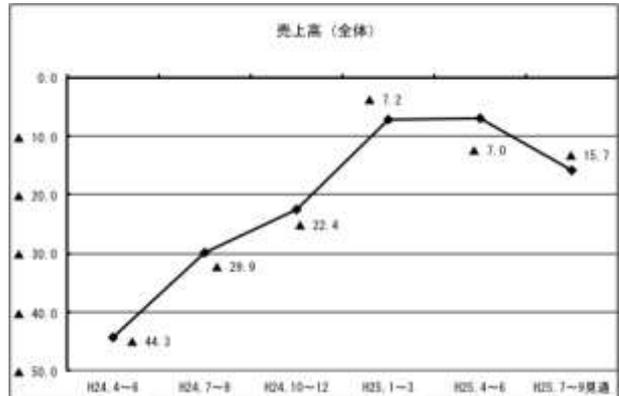
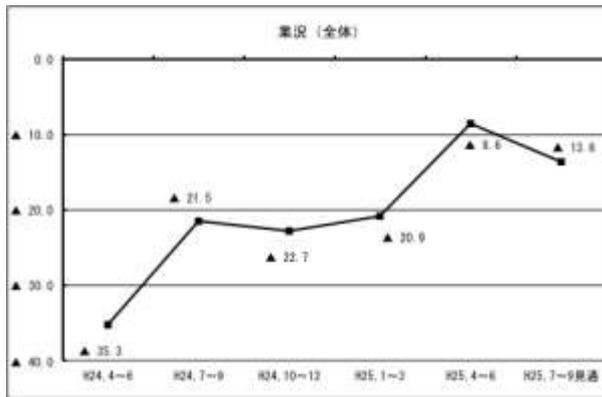
<資金繰り>

資金繰り DI は▲4.8 と前回調査に比べて 0.1 ポイント上昇している。業種別では、小売業が 10.8 ポイント低下の▲16.7、製造業が 10 ポイント低下の▲10.0、建設業が 16.7 ポイント上昇の 16.7、サービス業が 5.5 ポイント低下の▲11.1、卸売業が 45 ポイント上昇の 25.0 となった。

7～9 月期見通しでは、▲8.2 と 4～6 月期の実績に比べて 3.4 ポイント下降となっている。

<その他の意見>

- ・買わなくて済めば買いたくないお客が多い。まやかしの所得増加宣言をしても、客は将来を心配して、多分貯蓄に回すと思う。
- ・各業界とも過当競争で共倒れ間違いなし。



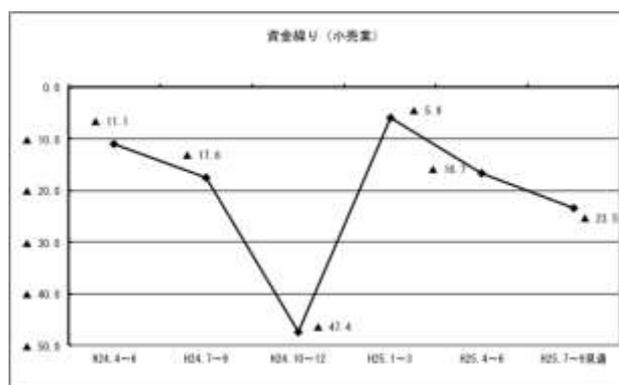
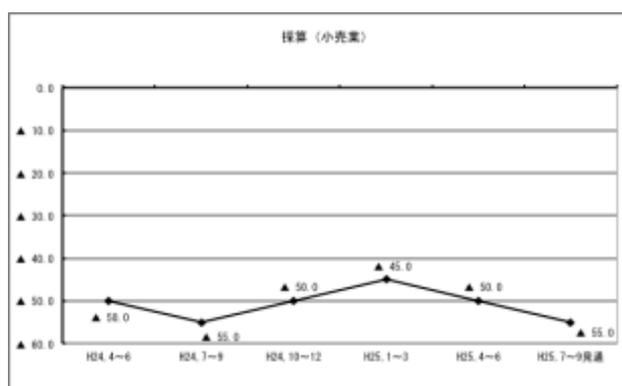
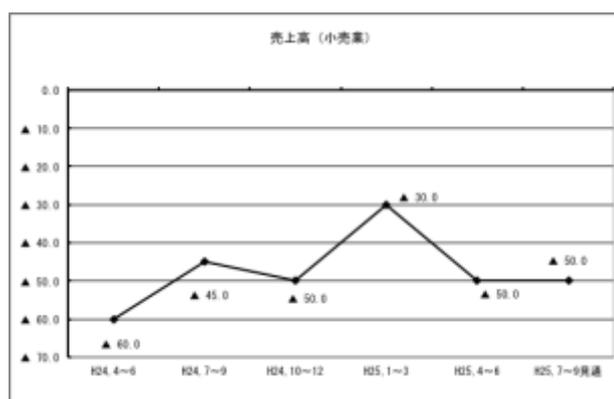
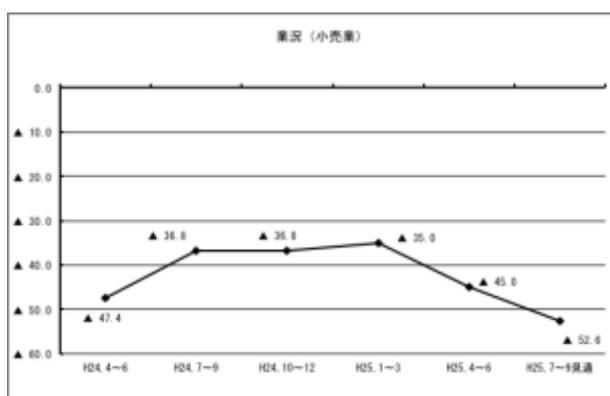
小売業

小売業の業況 DI は▲45.0 と前回調査より 10 ポイント低下した。3 四半期連続で上昇していた業況指数が今回調査で反転した。このまま数値が下っていくのか、持ち直すのか予断を許さない状況であり、7 月～9 月見込みが▲52.6 とさらに悪化している点で注意が必要である。

売上高 DI は▲50.0 と前回調査より 20 ポイント低下した。ここ 1 年は▲60.0、▲45.0、▲50.0、▲30.0、▲50.0 と推移しており、小売業全体では売り上げが下降を続けているように見える。7 月～9 月見込みも▲50.0 となっており、出口が見えない状態が続くようである。

採算（経常利益）DI は▲50.0 と前回調査より 5 ポイント低下した。ここ 1 年でも▲50.0、▲55.0、▲50.0、▲45.0、▲50.0 と振幅こそ少ないものの売上高のカーブと同様の動きを見せており、苦戦が続いている。7～9 月見込みも▲55.0 であり、次四半期見通しも明るくない。

資金繰り DI は▲16.7 で前回調査より 10.8 ポイント低下した。ここ 1 年では平成 24 年 10 月～12 月が▲47.4 と極端に低い数値になっているがそれ以外は比較的安定的に推移している。しかし、7～9 月見込みが▲23.5 と今回実績より悪い数値となっており、楽観はできない。



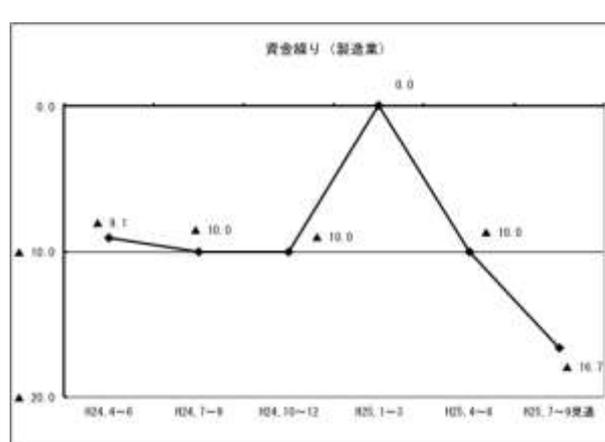
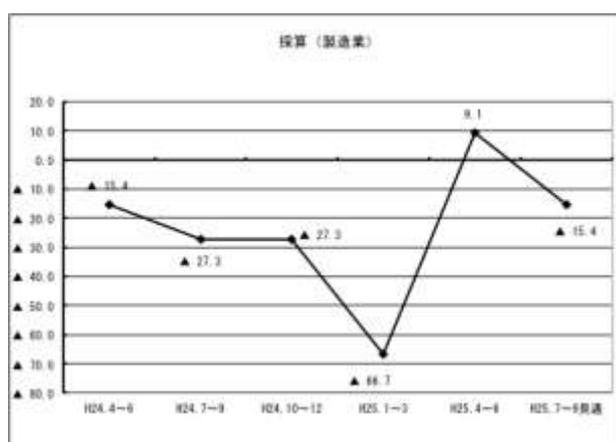
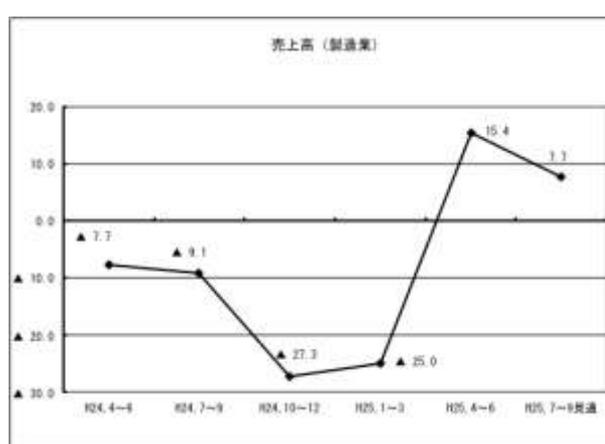
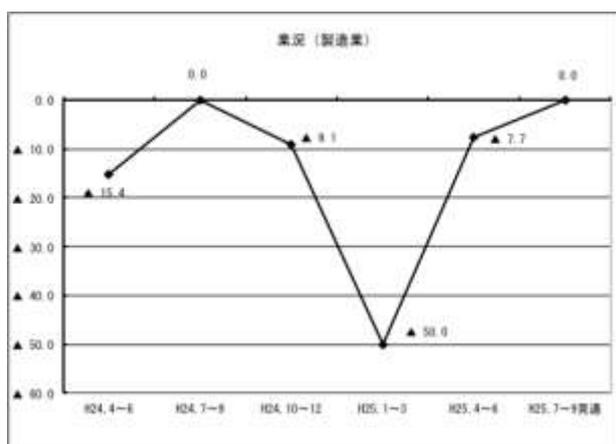
製造業

製造業の業況DIは▲7.7と前回調査に比べて42.3ポイント上昇した。前回調査の▲50.0が非常に大きな落ち込みであったが、今回の調査結果から見ると、前回調査が特異値であったように思える。7月～9月見込みも0.0とさらに数値が良くなっているので、製造業全体では良い傾向が続くと思われる。

売上高DIは15.4と前回調査に比べて40.4ポイントの上昇となった。過去1年ではDIがプラスを示したことがなかったことからすると、大きな転換があったと見られる。7月～9月見込みも7.7とプラスの領域にあることから本格的な拡大期に入ったのかもしれない。

採算（経常利益）DIは9.1と前回調査の▲66.7から75.8ポイントのプラスになった。採算も前回調査の四半期が極端に悪いことから当該四半期が特異であるかのようなのである。しかし、7月～9月見込みが▲15.4となっており、売上高の上昇と採算が上手く連動していない状態になりかねない懸念はある。

資金繰りDIは▲10.0と前回調査より10ポイント低下している。資金繰りの指数は過去から10ポイント程度の範囲で上下するようなので今回もその誤差内と見られる。ただし、7月～9月見込みが▲16.7と誤差を上回る低下なので注意を要する。



建設業

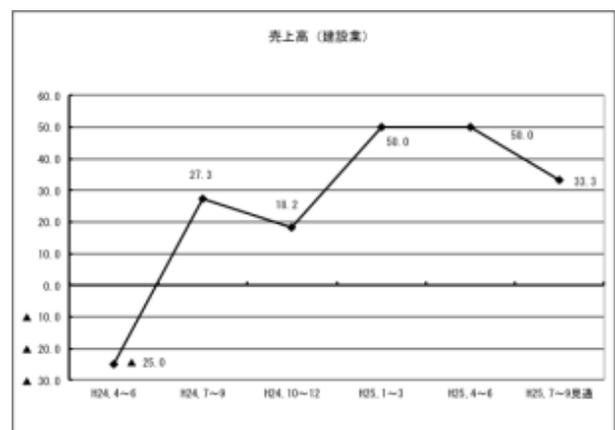
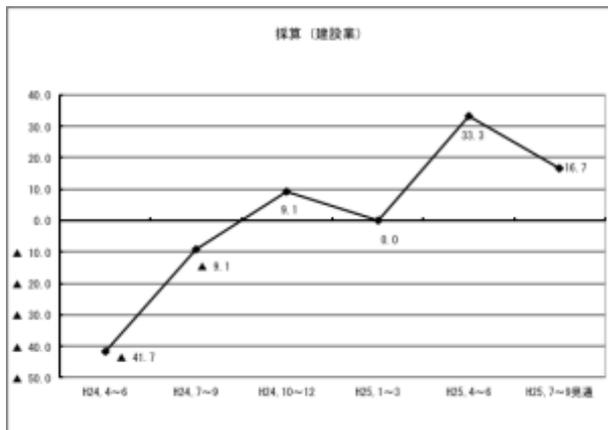
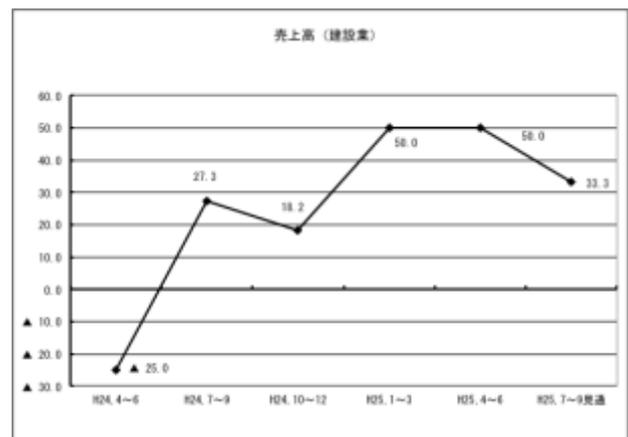
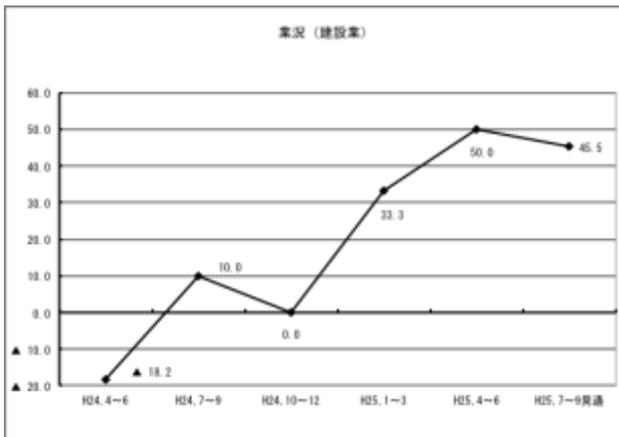
建設業の業況DIは50.0となり前回調査よりも16.7ポイント上昇した。2四半期連続の上昇であり、平成24年7月～9月期から4四半期連続でプラス領域にある。特に平成25年に入ってから33.3、50.0と高い数値で推移しており、平成24年4月～6月期に比べると雲泥の差である。7月～9月見込みは45.5と今回調査より4.5ポイント低下しているがそれでも高い数値見込みであるので、しばらくは建設業は好調であろう。

売上高DIは50.0と前回調査と同じであった。売上高も業況と同じく、平成24年7月～9月からプラス領域を保っており、好調をキープしている。7月～9月見込みも33.3とプラス領域の高い位置あることから売上高の面でもしばらくは好調に推移しそうな勢いである。

採算（経常利益）DIは33.3と前回調査より33.3ポイント上昇した。これで4四半期連続の上昇であり、平成24年4月～6月期に比べると75ポイントの上昇である。

業況、売上高、採算の3指標から見ると平成24年7月～9月期を境に建設業に良い方向の転換点があったことは間違いないと言える。

資金繰りDIは16.7と前回調査より16.7ポイント上昇した。資金繰りDIはそれほど大きく変化するものではないので、これをもって資金繰りが良好になったとは言いがたいが、堅調であることは変わりなさそうである。



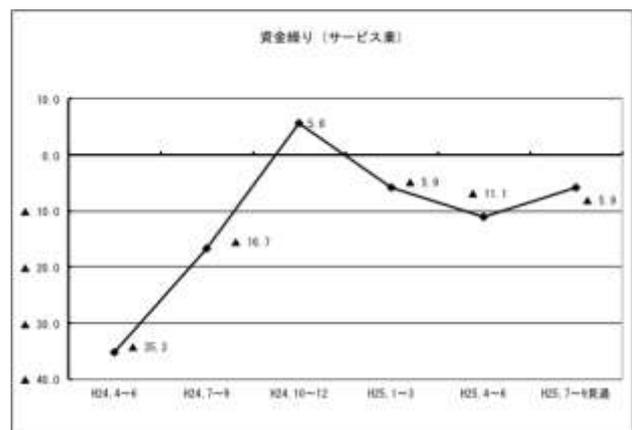
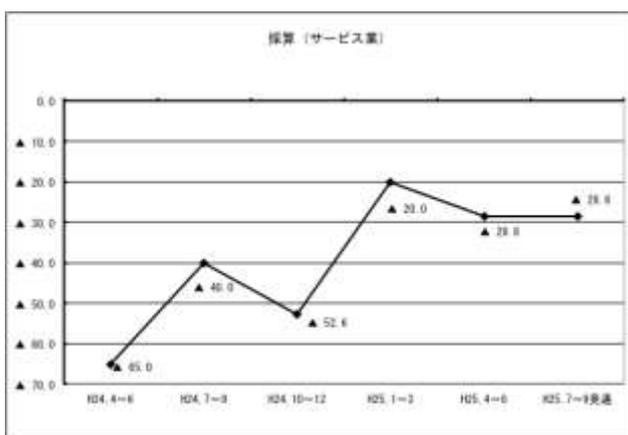
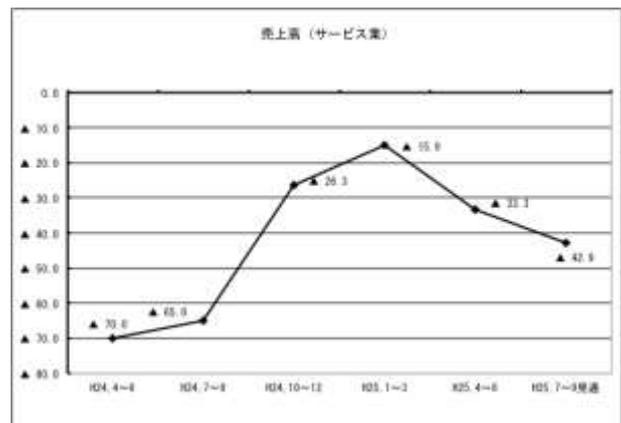
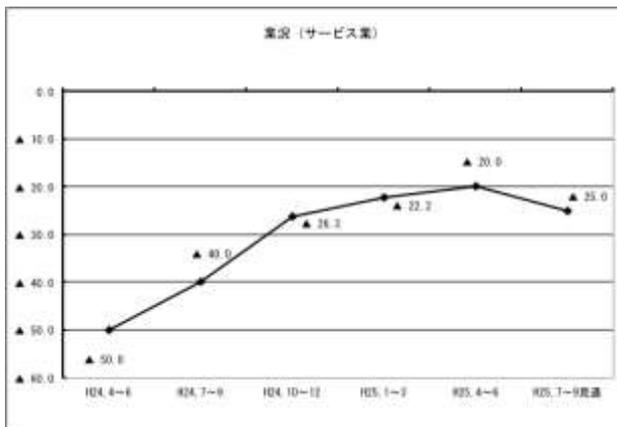
サービス業

サービス業の業況DIは▲20.0と前回調査より2.2ポイント上昇した。これで4期連続の上昇である。少しずつ確実に上昇している底堅さを感じるのであるが、7月～9月見込みは▲25.0と反転しており、ここにきて息切れがしているのか、見方が慎重なのかは実績を見るまで何とも言えない。

売上高DIは▲33.3と前回調査より18.3ポイント低下した。平成24年4月～6月期の▲70.0に比べると相当な改善であるが、完全な上昇基調に入れたい何かがあるように見える。7月～9月見込みも▲42.9と今回実績よりさらに悪化しているため、見通しが上手く立たない状態は続きそうである。

採算（経常利益）DIは▲28.6と前回調査より8.6ポイント低下した。売上高と同じく、平成24年4月～6月期の▲65.0に比べるとかなり高い数値であるが、数値自体はまだまだ低いところにある。7月～9月見込みも▲28.6と今回調査実績と同じであり、上昇のきっかけが見えてこない。

資金繰りDIは▲11.1と前回調査より5.2ポイント低下である。過去4四半期は資金繰りDIが比較的安定しており、今回実績もその誤差内と言える。7月～9月見込みは▲5.9であり、そのことを裏付けていると言える。



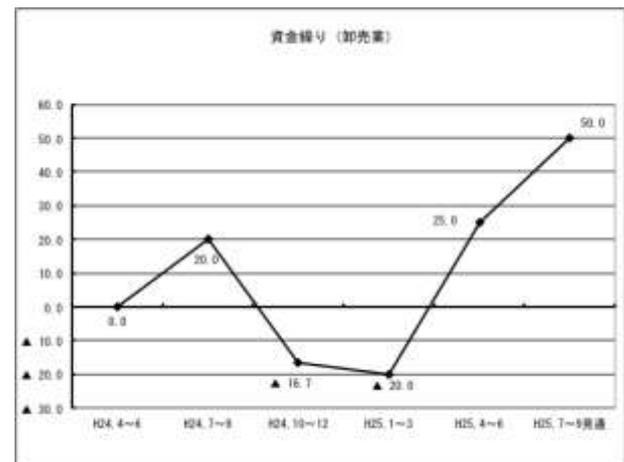
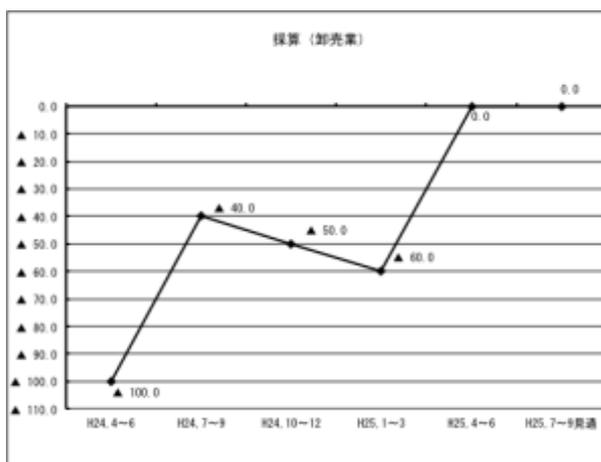
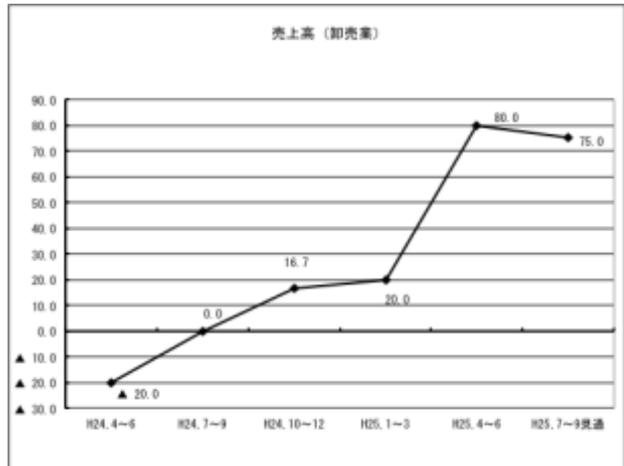
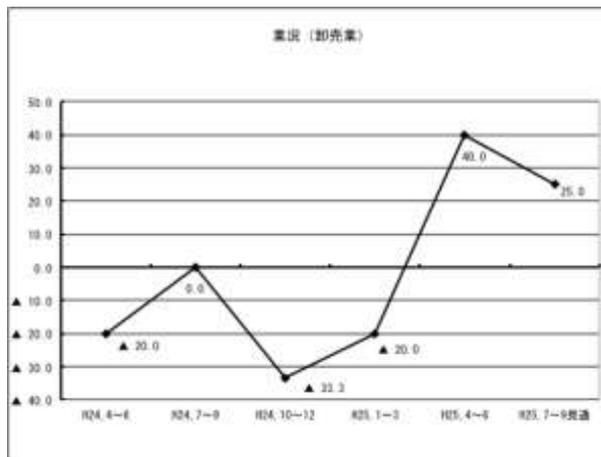
卸売業

卸売業の業況DIは40.0と前回調査より60ポイント上昇した。1年前と比べても60ポイントの上昇であるが、1年間で▲20.0、0.0、▲33.3、▲20.0、40.0と変動幅が大きいのが卸売業の特徴である。7月～9月見込みも25.0となっており振れ幅が大きい。司会s、プラスの実績と見込みという点はかなり期待できるものであり、今後このままの指数を保てればはつきりと好調と見ることができよう。

売上高DIは80.0と前回調査より60ポイント上昇である。この80.0は業界全体でかなり好調であることを意味しており、7月～9月見込みの75.0と合わせて考えても売上高ベースでは相当好調であると考えられる。

採算（経常利益）DIは0.0と前回調査の▲60.0から60ポイントの上昇である。平成24年4月～6月期が▲100であったことからすると完全に立ち直ったことになる。7月～9月見込みも0.0であるので採算も好調になることが予想される。

資金繰りDIは25.0と前回の▲20.0から45ポイント上昇した。業況、売上高、採算と好調を示す指数がでているので、資金繰りにもそれが好影響を与えているようである。7月～9月見込みも50.0と資金繰りも好調に推移しそうである。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	4～6 月期 動向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し
全 体	▲8.6	▲13.6	▲7.0	▲15.7	▲15.9	▲24.3
小売業	▲45.0	▲52.6	▲50.0	▲50.0	▲50.0	▲55.0
製造業	▲7.7	0.0	15.4	7.7	9.1	▲15.4
建設業	50.0	45.5	50.0	33.3	33.3	16.7
サービス業	▲20.0	▲25.0	▲33.3	▲42.9	▲28.6	▲28.6
卸売業	40.0	25.0	80.0	75.0	0.0	0.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し
全 体	▲8.6	▲8.8	▲9.2	▲20.5	▲1.5	▲4.8
小売業	▲15.8	▲10.5	▲31.3	▲31.3	▲17.6	▲20.0
製造業	23.1	30.8	▲25.0	▲15.4	23.1	23.1
建設業	8.3	0.0	16.7	0.0	▲8.3	▲16.7
サービス業	▲38.1	▲47.4	▲20.0	▲36.8	▲4.8	▲5.3
卸売業	20.0	20.0	80.0	80.0	20.0	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し
全 体	▲4.8	▲8.2	0.0	1.9	5.8	0.0
小売業	▲16.7	▲23.5	▲8.3	▲16.7	▲8.3	▲16.7
製造業	▲10.0	▲16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	16.7	0.0	18.2	18.2	27.3	18.2
サービス業	▲11.1	▲5.9	▲5.9	0.0	6.7	0.0
卸売業	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0

過去からの動向

